

灯火の「」で囲まれたセリフの収録をお願いします  
音声ファイルの最初にはお名前をお願いします。

『シーン1…セラの実力』

次の瞬間、唐突に耳をつんざくような爆発音がした。

桜「灯火ちゃん……いやああああ、助けてっ！」

灯火「桜っ大丈夫、社殿の中にいれば安全だから大丈夫」

セラ「……………」

(セラ目の色が変わる)

灯火「セラ……あれ迎撃出来る？」

セラ「空……………」

灯火「えっ？」

急にセラの翼が開き、物凄い風圧と共に外へ飛び出して行った。

やっぱり伝承は本当だったんだっ。

私は外へ飛び出した。

セラが天を見つめて立ち尽くしている。

灯火「ねえ、セラっ！」

セラ「フアランクス……起動……………」

今までとは別人のようなセラ

セラ「飛翔体接近……ロックオン……………」

セラ「フレア起動……ドックファイトモード……………」

セラの体から物凄い勢いで風が生まれる。

セラ「テイク……オフ」

セラは天空高く飛び上が……………りはせず……

少し浮いた状態でぐるぐる回り思いっきり地面に突き刺さる。

灯火「やっぱり壊れてたああああああ」

セラ「フランクス……………弾切れです……………」

セラにミサイルが突き刺ささり大爆発を起こした。

セラ「私、故障中のようです。自信は無いですが……………」

あ、生きてた……………頑丈だな……………

灯火「ダメだこの最終兵器……………」

「シーン1…戦闘」

灯火「おんどりやあああああああ」

ルシフェルZが吹き飛ばされる。

灯火「私の友達（ダチ）に、なにしてくれとるんじゃあああワレええええ」  
フランクス？

超加速しながら地球を回り、私を避けてフランクスを打ち込んだ……………

明弘や……………空並みのセンスです。

ん？

空って誰でしたっけ？

灯火「いちびつとつたら、ケツから手突っ込んで

前歯コンコンしてやるワイのおおお」

セラ「灯火なんだかガラが悪いのですよ。」

灯火「これが貴方たちの戦い方なんですよ」

セラ「少し違う感じですけど、おおむねOKですよ灯火。」

灯火「セラ……………辛い思いしてきたのね……………明弘さんか……………」

灯火「バイラヴィ……どうしたらいい？」

セラ「いや、バイラヴィも奴には勝ったことが無いのです。」

灯火「でも、奴は……あのクソつたれアスラは弱っている……

とバイラヴィは言ってる気がする。」

セラ「たしかにそうです。」

明弘や空にやられた傷が治っていないのです……でもっ

灯火「カーリーに取りついて1000年……

どのくらい回復したのかな……死にぞこないのクソ野郎は……」

灯火「セラ……奴はギリギリで生き残って来ただけ、

セラの元カレのダメージも残っている」

セラ「あつ、あの……明弘は……元カレなる関係では……

無かったです。」

灯火「とにかく……奴は回復はしていない。」

不思議に思ってた事があるのよ。」

灯火「タイマンは……これからでおます、王様はん……お命もらいうけまっせ

覚悟しいやつ。ひやつはー」

セラ「どことなく違う気がします……灯火、無理はしないで下さい。」

灯火「セラの元カレの仇……くらえっ」

私は思いつきりバイラヴィをルシフェルZにぶつけた。

凄い衝撃が走る。

ルシフェルZは腕を伸ばしバイラヴィを締め付ける。

セラ「灯火っ取りつかれたのです。離れてっ締め潰されます。」

灯火「ルシフェルZ……さあ、今まで戦ってきた人類の気持ち……

明弘さんの気持ち……セラの気持ち……」

灯火「思い知って燃え尽きなさい。」

私はバイラヴィの高度を一気に落とす。

大気圏の摩擦でバイラヴィとルシフェルZが赤く染まる。

コイツは大気圏を越えられない……それほどダメージが深かったって事だ……  
ルシフェルZがたまたまバイラヴィを放す。

灯火「今だっクタバレ、クソ野郎」

私はバイラヴィを立て先端をシフェルZに向ける。

灯火「グラビティブラスト三連正射、レーザートマホーク弾切れまで撃て、

フアランクスも同時に切れるまでうてっ！」

至近距離で連射されルシフェルZは2つに砕ける。

「僕だってこんな事……」

コックピット内に歌が響く。

灯火「黙れえええ」

私は再びバイラヴィをぶつける。

「シーン3…探しに行こう」

セラ「灯火、対人ミサイルJ9接近、距離12000メートル」

灯火「りょうかい、レーザートマホーク発射」

セラ「撃破確認6、後続2」

灯火「レーザートマホーク発射」

セラ「2機爆破確認、ミッションクリアです。自信は無いですが……」

灯火「撃墜成功やったね私！」

セラ「でも……このままでは危険かもしれないのです。たぶん。」

灯火「ん？危険？何で？」

セラ「今はレーザートマホーク1発あたり内部生成の日、  
必要なですよ。」

灯火「一日1発以上打つと赤字って事か……」

灯火「確かに最近ミサイルが降って来る間隔が狭くなってるし……」

灯火「レーザートマホーク1発あたり、そのめん換算だと、どのくらい？」

セラ「約300トンで1発です。そんな気がします。」

灯火「もっと栄養のあるものを食べさせないとダメか……」

灯火「栄養のある物ってそもそも何？」

セラ「やっぱり核燃料じゃないかと思えますよ。たぶん。」

灯火「核燃料……どこにあるんだろう？」

セラ「場所はバイラヴィが知ってるって言ってます。」

灯火「なんだ、じゃあ取りに行こうよ。そうしよう。」

セラ「あんまり……良い思い出が無い場所なのですよ……」

灯火「ん？まあ、とりあえず行ってみてから落ち込めばいいじゃん。」

セラ「……」

灯火「お弁当持って、桜も乗つけて、核燃料を探しに行こう！！」

セラ「お弁当！！なんでしょう……なんだか心が躍る響き。昔食べた事がある

気がします。たぶん」

灯火「ふーん、でもセラってロボの割に、庶民派な食べ物が好きだね。」

セラ「ロボでは無いのです、半生体人造アンドロイドなのです。」

灯火「自信は無いですが……たぶん。でしょ？」

セラ「もう、灯火が意地悪なのです。自信満々です。」

灯火「えくめずらしー」